

## 令和2事業年度決算の概要について

国立大学法人山梨大学の令和2事業年度財務諸表等の決算関係資料が文部科学大臣より承認されましたので、大学の財政状態や運営状況を広く知っていただくため、ここに公表いたします。

わが国は、経済を中心とする急速なグローバル化や少子高齢化といった急激な社会環境の変化が惹起した解決困難な種々の課題に当面しており、本学は、国民が当面する課題を克服し、わが国が持続的に繁栄できるよう、教育、研究、社会貢献機関としての本来の使命を果たす責務を負っています。この責務を果たすためには、本学の教育・研究機能を一層強化することが必要です。このため、自ら点検・評価を行うとともに、社会からの声を広く求め、以下のように教育・研究改革を推進しています。

第3期中期目標期間の5年目である令和2年度は、コロナ禍という特殊な状況により、多くの取組に影響が及んだところではありますが、様々な対策や工夫により中期目標・中期計画の達成に向け各種取組を一層加速させました。

運営面においては、“(一社)大学アライアンスやまなし”の枠組みを活かし、山梨県立大学と教育関係事業をはじめ多様な連携事業を展開しました。令和2年11月には文部科学省国立大学改革推進事業に採択されるとともに、令和3年3月には、同法人が文部科学大臣から全国初となる「大学等連携推進法人」に認定されました。同認定を受け、令和3年4月から開設する53科目の連携開設科目を整備するなど、更なる連携事業展開のための準備を進めました。

研究面では、異分野融合研究の推進及び教育への展開を図るとともに、世界的に注目を集める「グリア細胞」に関する先端研究の推進拠点として、「山梨 GLIA センター」を設置(令和3年4月)することを決定し、整備等を進めました。

また、今日的課題である新型コロナウイルス感染症に対応するため、全学的にオンライン授業を導入し、遠隔と対面を組み合わせたハイブリッド授業を実施したほか、返済不要の緊急支援奨学金の給付やネットワーク環境構築のための支援を行うなど、教育環境を整備しました。一方で、医学部附属病院では早期の段階での感染患者受入れや、ドライブスルー方式PCR検査を導入するなど、迅速かつ積極的に取り組みました。さらに、同感染症に関する研究では、新型コロナウイルスが肺炎だけでなく髄膜炎も起こすことを世界で初めて報告し、国内外から大きな注目を集めました。

本学は今後も中期目標・中期計画の達成に向け、厳しい財政状況の中、外部資金の獲得等自己収入の確保を図りながら、一層の経費節減や事業の見直し・効率化等を継続して進め、教育・研究活動の更なる充実・発展に努めるとともに、その成果を活かした社会貢献を進めてまいります。

公表にあたり、ご支援いただいた関係各機関や地域の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、本学が今後も「地域の中核を担う人材、世界で活躍する人材」の養成を通し、社会の発展に

寄与することができますよう、引続きのご支援をお願い申し上げます。

国立大学法人山梨大学 学長 島田 眞路